

4. 「大手前之町」、「法円坂町」、「馬場町」及び「杉山町」について

(現・「大手前1丁目～4丁目」、「馬場町」、「法円坂1丁目・2丁目」、「大阪城」)

- ・ここは、大坂城外濠沿いの地域で豊臣期の三の丸域に属し、江戸時代には城代下屋敷や京橋口御定番屋敷、同心屋敷が建ち並び、明治に入るとその多くが兵部省(のち陸軍省)の所管となって、軍関係の施設で占められていた。戦後、昭和20年8月に閣議決定された「戦争終結ニ伴フ国有財産処理ニ關スル件」により、これらの施設地は国や大阪府に移管され、大阪府庁を始めとする主官公庁舎や公立病院・学校が集中する地域となった。
 - ・これらの地域は、明治2年に兵部省所管となって、東成郡に属していたが、明治12年(1879)2月の郡区町村編制法施行によって設置された東区に属することとなり、「大手前之町」、「法円坂町」、「馬場町」、「杉山町」の町名は、同年5月に誕生した。
- ここでは、これら4つの町について、それぞれの町の移り変わりを眺めていきたい。

*大手前之町(チョウ)

現在は中枢官庁街

- ・大坂城代下屋敷、京橋口定番上屋敷、東町奉行所などが置かれていた地域で、明治に入ると兵部省の所管となり、大阪陸軍病院、輜重(シヨウ)兵營、歩兵第7旅団司令部、大阪聯隊區司令部、陸軍兵器支廠、被服倉庫、陸軍幼年學校、憲兵隊本部や第4師団長官官舎などが設けられた。
- ・こうした中で、軍関連施設として明治10年に設立された「偕行社」は、現在も「追手門学院」として姿を変えた形であるが、その流れを伝えた存在になっている。
- ・その他の陸軍関連施設については、まず、輜重兵營地が転營を機として大正10年に跡地が大坂府に売却され、大阪府庁舎・大手前高等女學校が建設された。その他については、昭和20年の終戦後に国や大阪府の所管に移され、国の合同庁舎や府警本部・府関連施設などを中心とする官庁街に生まれ変わった。
- ・平成元年(1989)2月、東区と南区が併合されて中央区が誕生した時に、現町名の「大手前1丁目」から「大手前3丁目」に分割されている。なお、「大手前4丁目」は、もと法円坂町の一部(上町筋の西側で大手前3丁目の南部)が新たな町名として設定された。
- ・大手前之町の地名は、“大坂城追手口(大手口)の前である”ことに由来する

*法円坂町

- ・大半が大坂城代や京橋口定番の与力・同心屋敷地だった地域で、上町筋沿いには上本町1丁目・2丁目があり、2丁目の西側は鈴木町と呼ばれ、大坂代官所が置かれていた。明治以降は兵部省の所管となり、陸軍用地として歩兵第8連隊、歩兵第37連隊、野戦砲兵第4聯隊や陸軍被服支廠&被服倉庫などが置かれていた。
- ・戦後は、北部に市立中央体育館(のち、NHK大阪放送会館と大阪歴史博物館)、家庭裁判所、市立東中学校や国の合同庁舎、南部の上町筋西側には国立大阪病院(現・大阪医療センター)、東側には、難波宮公園や大阪市法円坂住宅など公的施設に活用された。
- ・平成元年(1989)2月に中央区が誕生した時に、上町筋の西側が「大手前4丁目」になり、東側は西から「法円坂2丁目」と「法円坂1丁目」とに分けられた。
- ・地名の由来は、かつて所在した法安寺(生國魂神社の神宮寺)の転訛説や、浄照坊の開祖である法円がここに邸宅を構えていたなどの諸説がある

*馬場町(ハンバチヨウ)

- ・当初の「馬場町」は大坂城郭と外濠周りからなる地域で、江戸時代は幕府直轄地であったが、明治以降は兵部省の所管となり、大坂城内には第4師団司令部、輜重兵第4大隊や陸軍兵器補給廠と同兵器庫などが置かれ、外濠南側には陸軍射撃場もあった。
- ・戦後、そうした施設が撤去されたあと昭和23年に大阪市に返還され、外濠周りを含めた一帯が大坂城公園として、順次、整備が図られ、公園地域全体について新たに「大阪城」の町名が付されるとともに公園の南側、本町通と中央大通に囲まれた地域を新たな「馬場町」の町域とした。
- ・町名は、大坂城の芝地や空地が“番場”と呼ばれていたことに関係すると思われる。

*杉(杵)山町(チョウ) … 現町名は「大阪城」

- ・大坂城北外濠と東外濠の東側地域で、江戸時代には玉造口定番屋敷、下屋敷と同与力・同心屋敷地などであったが、明治3年(1870)に兵部省造兵司が置かれ、のち全域が大坂砲兵工廠となっていた。
- ・大空襲によって焼野原となったが、その後、大坂城公園の一画として整備が図られ、現在は、「市民の森」、「記念樹の森」といった市民の憩いの場となっている。
- ・町名は、この地にかけて杉山(杉木の小山)があったことによるもので、その杉山は、砲兵

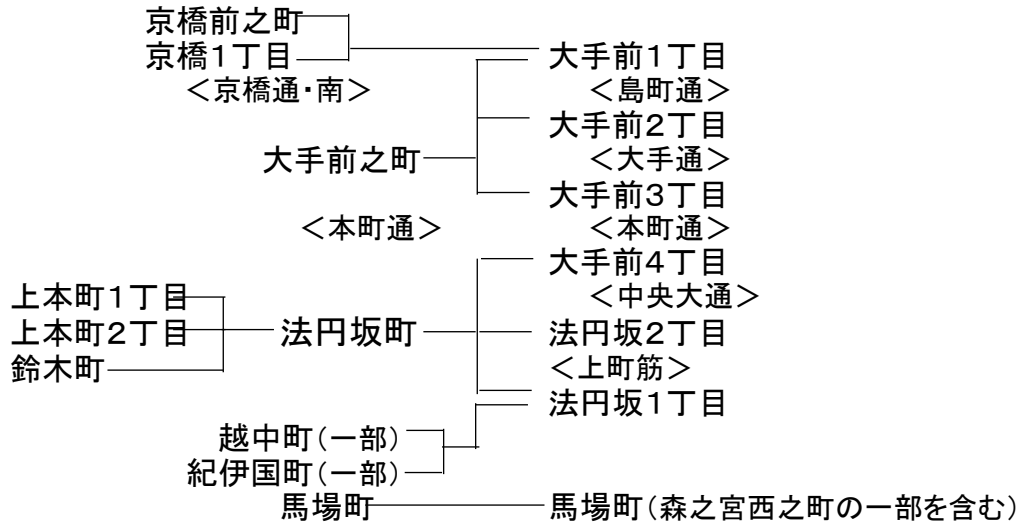
工廠を建設の際に削り取られてしまった。

<参考> 明治12年(1879)頃の大坂城および周辺の町名・地番



*この地域の町名の移り変わり

<平成元年(1989)・中央区>



上本町1丁目・2丁目は、上町筋に沿ってその両側を南北に延びる町であった。
鈴木町は、江戸時代に鈴木町代官所と代官屋敷があり、代官・鈴木三郎九郎の名に因む。

○「上町筋」について … 「上本町筋」とも称される

- ・上町台地を縦断する古くからの南北道で、京阪東口交差点から阿倍野区の附属天王寺小学校前交差点に至る約5.2kmの片側2車線・全4車線の主要道路である。
- ・市電は、上本町線(上本町2丁目から天王寺西門前まで)が明治43年(1910)12月に開通し、大正12年に京阪東口～馬場町間、昭和3年に残りの馬場町～上本町2丁目間が敷設されて全線に市電が通じたが、昭和43年(1968)12月に全区間が廃止され、現在は市営バスの基幹路線が運行されている。
(地下鉄・長堀鶴見緑地線の計画にあたって、大阪府庁前を通る路線が検討されたが、地下に大坂城や難波宮の遺跡があることから見送られたとの経緯もある。)
- ・北部地域は、明治に入って軍事施設に利用されたが、大正15年に大阪府庁が移ってからは官公庁街が形成され、中央大通の南の法円坂町には、東側に難波宮跡公園、西側に国立大阪病院(現・大阪医療センター)が占めている。